

在校生・卒業生・保護者・教職員

進路通信 2017/05 前期

北海道釧路湖陵高等学校進路指導部

ゴールデンウィークが終わり、はや1週間がたちました。GW明けに進路通信を発行する予定でしたが、私自身もGWロスなのではないでしょうか。さて、今週からは高体連の地区大会がスタートします。先週の壮行会、激励する側よりも大会に出場する生徒が多かったような気がしますね。もちろん、高文連に参加する生徒は激励する側にいることになるので、一概には言えませんが、「文武両道」も湖陵高校の大きな特徴の一つです。

以前3年生の担任をしていたときの会話です。
生徒：先生、最後の大会に向けて練習がハードすぎ！体、ボロボロで疲れた～
私：そりゃ、最後なんだから気合いも入るし、疲れるべさ。毎日充実しているってまさに青春でしょ。
生徒：そうかな～（まんざらでもない様子）
私：そんなに毎日忙しかったら、勉強する暇ないべさ。
生徒：そうなんですよ。家に帰ったらすぐ寝ちゃうんです。
私：うーん。それは分かるけど、1時間ぐらいは勉強した方がいいんでないかい？
生徒：当たり前です。1時間ぐらいは毎日ちゃんとやっています！（ちょっと怒った言い方）
わかりますか？この生徒が言いたいことが？この子は1時間ぐらいの勉強は湖陵生ならば当然でしょ、と言いたいのです。と同時にそのぐらいは信用して！とも言いたかったのではないのでしょうか。今の湖陵生にも当てはまるはずですよ。「文武両道」のフレーズにしっかりと当てはまる行動ですよ。

★特集 進路指導指針 「志を高く持ち、易きに流れない」

進路指導に関しては、「文武両道」以外にも湖陵生にとって大切なキーワードがいくつもあります。その全てはあげることができませんが、改めて生徒の皆さんはそのキーワードの意味をしっかりと理解して下さい。

1 志を高く持ち、易きに流れない。

自分の能力や才能の限界に挑戦することには、大きな価値があります。目標が達成できるかどうかは、入試の結果を待たなければなりません。しかし、自分を大きく成長させるためには、限界を知ること、限界を超えようとして努力することが大事です。難関大学を目指すことは、一つの指標です。自分が挑戦したい目標を持つことが大事です。

2 受験は、団体戦である。

自分の目標を達成するためには、個人の意思と努力が必要です。しかし、ともに競争できる仲間、支え合う環境が、個人の努力を大きく後押しすることは間違いありません。個に応じる指導の重要性も大事ですが、学校の教育活動が同じ方向に進んでいないと、個人の思いは易きに流れはじめます。最後まで努力できる環境を大事にするためにも、団体戦は重要です。

3 予習・授業・復習の黄金のサイクルを徹底する。

予習は、未知の事柄を自分でひもといてみる行為です。分かることと分からないことを整理する力を育てます。授業は、その確認です。あるいは、気づけなかったことの再発見の場です。復習は、確認・再発見の再現です。物事の理解や定着には、反復が必要です。入学時に指導されるこの学習習慣を、早く確立させることが大事です。本校に入学した生徒の大半は、国公立大学、または難関私大への進学可能性があります。その土台は、この習慣からはじまります。

4 質より量。走った距離は、裏切らない。

最低限の努力で、最大の成果を期待する人がいます。しかし、そんなことは現実には起こりません。学習は、圧倒的な量によって成果があらわれます。質を求める人は、この量をこなした人です。課題を見つけるためには、たくさんの経験や情報を持っている必要があります。実験の成果も果てしない繰り返しのなかから生まれてきます。私たちは、地道な努力を続けていかなければなりません。凡事徹底です。人が真似をできないくらい繰り返し努力を続けていきましょう。

5 計画的な学習で課題を解決する。

物事を達成するためには、計画が必要です。流れの中で生活をしていると「易きに流れる」場合もあるでしょう。計画を立てる時、達成できなかった経験を思い浮かべる人がいます。その人は、どうせ計画を立ててもまた失敗すると考え、計画立案を避けてしまいます。計画を立てる意義の一つは、常に軌道修正をして目標に向かうことです。行動すれば必ず課題が見つかります。つまづきを体験します。これらを解決しながら大きな目標に向かうわけですから、自分を客観的に見つめるためにも、計画立案を実行しましょう。
また、土曜講習や平常講習を効果的に使ってください。計画的な学習の一環としてこうした講習を組み込むことが重要です。授業・家庭学習、そして各種の講習全ては密接につながっているはずだし、密接だからこそ、学力向上にもつながるのです。バラバラにしないこと。計画的に学習をしていきましょう。

6 大学のこと、職業のことを節目で考える。

高校時代に考えたことは、大学生活に影響します。高校1・2年までに将来のことを具体的に考えている人は、大学での生活や学びが主体的になります。大学での4年間が主体的であると、社会で活躍できる人材として成長できる可能性があります。高校時代にキャリアを考えたことのない人は、大学でもキャリアを考えることはできません。就活を前にして対策を立てることしかできません。教育活動の節目において、時折将来を考え自分の取り組みを見つめてみるのが大事です。

7 文武両道を成し遂げる。

高校では、学習と同時に諸活動にも取り組みます。両立することは、かなり難しい面があります。でも、困難だから挑戦する価値があります。学校でも社会でも、活躍できる人、主体的に行動できる人は、Range（幅）の広い人です。勉強も頑張るけれども、部活動も頑張る。あるいは、課外活動にも精力的に取り組む人です。諸活動で鍛えられる力は、後になってじわじわ効いてきます。諸活動だけに夢中になってはいけません。学びだって重要です。この両立は、本当に難しい。でも光輝く価値があります。

8 大学で伸びる力をつける。

課題を解決する学習や、議論によって学ぶことは、大学での学びにつながります。課題を見つけることはとても難しいことです。議論は、話し合いをしたままで終わり、学びに繋げることができない場合が多いかも知れません。大学でこのような学びをするためには、高校

時代に身につけておかなければならないことがあるでしょう。情報を収集したり、議論を通して身につく知識や体系を見せる経験をさせなければなりません。

9 論理的に考えて表現する力は、生き抜く原動力である。

各教科で思考力を鍛える授業は行われています。それを論理的に記述し表現することも指導しています。SSH の実践でも、レポートや論述、英語表現を取り入れて活動しています。大学では、レポートを書く機会が頻繁にあります。構成を練り論理的に表現する力は、高大接続を考えた時、一つの共通点となります。

10 逃げたことは、いつまでも自分の中に残る。

失敗やつまずきは、誰にもあることです。体裁の悪さから人に気づかれないように、そっと逃げ出すこともあります。いつも逃げないでいることは、いつか心が折れてしまうかも知れません。でも、どこかで立ち上がらなければなりません。どこかでけりをつけなければなりません。仲間と競争し最後まで努力する志を大切にしましょう。

★ 高大接続改革 センター試験が生まれ変わる！

現在の中学3年生が大学を受験するときにセンター試験が新しいものになります。それならば現役の湖陵生は全く関係ないのか、と言えばウソになります。突然、センター試験が全く違う物になるわけではありません。ちょっとずつ変化していきます。また、国公立大学の2次試験や私立大学の一般試験はすでに変化しており、これまでの傾向と違う問題が出題されるなど時代はダイナミックに変貌しつつあります。

私は大学時代に講義の1つで「産業革命」を学んだことがあります。「革命」というのですから翌日になったとたん、急に産業革命となったわけではないそうです。1つ1つの小さな積み重ねが大きな1つの流れを生み出し、その大きな流れが結果として「産業革命」に見えるのだ！ということが講義を受けて学んだことです。この高大接続改革も1つ1つの積み重ねが大きなうねりになります。なぜ改革していかなければならないのか、その中身は何なのか、生徒にとって今やるべき事を増やさなければならぬのか、しっかりと見極めていきましょう。

今後、進路通信では高大接続改革を継続的に取り上げていく予定です。紙面を通して、湖陵生が考えるべき事、やるべき事を1つずつ理解していきましょう。

1 改革の背景

- ・2011 年にアメリカの小学校に入学した子どもたちの 65 %は、大学卒業後、今は存在していない職業に就くだろう。
ニューヨーク市立大学大学院センター教授キャシー・デビッドソン氏
- ・10 ～ 20 年後に、日本の労働人口の約 49 %が、技術的には人工知能やロボットなどにより代替できるようになる可能性が高い。
株式会社野村総合研究所「国内 601 種の職業ごとのコンピューター技術による代替確率の試算」
- ・日本の人口は、2030 年に 65 歳以上の割合が総人口の3割に達する一方、生産年齢人口（15 歳以上 65 歳未満）は総人口の約 58 %にまで減少。
国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口（2012 年 1 月推計）」
- ・今後 10 ～ 20 年程度で、半数近くの仕事が自動化される可能性が高い。
オックスフォード大学准教授マイケル・オズボーン氏
- ・2045 年には人工知能が人類を越える『シンギュラリティ』に到達する。
アメリカ人発明家レイ・カーツワイル氏

こうした言葉の1つぐらいは聞いたことがあるでしょう。「A I」の能力が我々の仕事や職業を代行できる時代が迫りつつあるし、日本の若者の人口が大きく減少しつつあることも事実です。

この時代の大きなうねりに対して、子どもたちの学ぶべき事項も変えていかなければなりません。「生きる力」や「確かな学力」を育てる必要が出てきました。

- これまでの生徒が学んでいたのは
- ①基礎的・基本的な知識・技能の習得
 - ②知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等
 - ③主体的に学習する態度
- の3つでした。センター試験では①の「知識・技能の習得」を測る試験でした。それが
- ①これからの時代に社会で生きていくために必要な、「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度（主体性・多様性・協働性）」を養うこと
 - ②その基盤となる「知識・技能を活用して、自ら課題を発見しその解決に向けて探究し、成果等を表現するために必要な思考力・判断力・表現力等の能力」を育むこと
 - ③さらにその基礎となる「知識・技能」を習得させること
- に変わります。

生徒の学ぶべき目標が変わるのですから、当然大学入試制度も変わります。そして大学での教育目標も変わらなければいけませんよね。高校・大学入試・大学教育全てを変えていこうとしているのがこの高大接続改革なのです。

- 大学教育改革の柱は
- ①ディプロマ・ポリシー 卒業認定・学位授与の方針
 - ②カリキュラム・ポリシー 教育課程編成・実施の方針
 - ③アドミッション・ポリシー 入学者受け入れの方針
- の3つです。

特に③は現役の湖陵生も大事です。以前は漠然として、抽象的だったものがより具体的に成りつつあり、どんな生徒をうちの大学ではほしいのか、はっきりと明示しつつあります。大学受験要項に記載されているアドミッション・ポリシーをよく読んで、その上で集団討論や面接、小論文に取りかかるのは現高校3年生にも非常に有効です。旭川医科大学はその典型的な例であり、時代を先取りしているのかもしれないね。

「知識・技能」に加えて「思考力・判断力・表現力」を測るのがセンター試験に替わる新試験となります。このことについては今後より詳しくお伝えしていきます。

- では「主体性・多様性・協働性」は大学入試において、どう測っていくのでしょうか。
- <個別入試（2次試験）での評価方法>
- ・自らの考えに基づき論を立てて記述する形式の評価（小論文？）
 - ・調査書（様式変更？）
 - ・活動報告書（個人の多様な活動・ボランティア・部活動・各種団体活動等）
 - ・各種大会や顕彰等の記録資格・検定試験の結果
 - ・推薦書等
 - ・エッセイ・大学入学希望理由書、学修計画書
 - ・面接，ディベート，集団討論，プレゼンテーション

こうした形が今後増えていきます。「進路のしおり」（6月発行予定）の後ろの切取線でレポートがあります。高校3年間でどんな活動をしたのかを測るためにはその都度何かに取り組んだ際の自己評価をしていく必要が今後ますます必要になってきます。3年生の受験の時に、1年生で「〇〇体験」に参加したけど、どんなことを学んだっけ？？？では受験できないのです。

平易に書いたつもりですが、疑問点もたくさんあることでしょう。また、そんなに一気に言われても！という生徒も多いことでしょう。しかし、改革は止まってはくれません。一歩ずつ一歩ずつ我々教職員と一緒にともに理解していきましょう。そしてこの新しい時代と一緒に踏み込んでいきましょう。私はどんな時代でも未来は明るいといつも思っています。一歩踏み出すときと新しい世界が我々を待っていると思います。